

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小川 佐和子					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	仏書講読										
【授業の概要・目的】											
フランス語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、フランス語で書かれた映画史文献や批評記事を読んでいます。フランス語の読解力の向上を図るとともに、映画史・映画理論研究にかかわる方法論についての理解を深めることを目標とします。また映画作品の分析を行い、文化的背景についての知識も深めます。											
【到達目標】											
1) 映画学研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 2) 映画史の分野にかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN 第2-14回 1917年の革命勃発後、亡命ロシア映画人がフランスで設立したアルバトロス社の映画史的位置づけについて、関連する二次文献や当時の批評を読解していきます。アルバトロス社で製作された映画は、同時代のフランス前衛映画および映画理論に多大な影響を与え、その余波はドイツ表現主義映画にも及んでいます。 第15回 フィードバックを行います。											
必要に応じて参考上映の機会を設けます。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましいです。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と、授業中の訳読の回数や取り組み方により、到達目標に示した諸点をふまえて評価します。											
【教科書】											
授業の進度に応じてテキストのコピーを配布します。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参加者全員が事前にテキストに目を通しておくことを前提とします。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠です。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。